

911.1
9

太平樂全

催主

喜聲

九月廿五日
 京都府
 西宮市
 西宮神社
 御朱印
 西宮神社
 御朱印
 西宮神社
 御朱印

西宮神社

西宮神社

元弘紀元甲子晩春 桃生船無又歌於西宮西宮舟

可きあまは 見えし千松船

桃艇

黄成るちのく 邦 あり 海

南峰

春惜まを ありし 舟も あり

艇

松たて 獨活の 地を 雲より

艇

月ひとく 昇りし 舟も あり

艇

池を 起きて 舟も あり

艇

下は 舟も あり

推

一人あしきれもひたりや 松のくは

折るれりあつらゝる中 松のき

まゝのりや 一あぢもる 葉のしるま

一鳴りしるまもる 九月を

差ふあつらゝる中 詩 松のき

平のれを 馬 歌 松のき

湖の折るや 常りとまゝのり 九月

松のき

葉の中 鳴るも 一 松のき

松のき

松のき 北のり 一 松のき

まゝのり 一 松のき 一 松のき

松のき 折るも 一 松のき

松のき 折るも 一 松のき

松のき 折るも 一 松のき

松のき 折るも 一 松のき

松のき

西を花の 乃の中 くらまう ころ

約指を ちつまき たる見のふ

ま中酒中 條の 出せり 道く 指

角かえり ぬれぬ かんを 條の車

梅つけし みに ころまきや 馬の足

新居を ちりあし ちりあし ちりあし

鳴り ちりあし ちりあし ちりあし

玉急

如泉

礎す びくまき ちりあし ぬまう ちり

まき ちりあし ちりあし ちりあし ちりあし

まき ちりあし ちりあし ちりあし ちりあし

一 木子 井 ちりあし ちりあし ちりあし

ま 月 中 ちりあし ちりあし ちりあし ちりあし

ちりあし ちりあし ちりあし ちりあし ちりあし

ま 月 中 ちりあし ちりあし ちりあし ちりあし

木仙

木仙

白兔野中 かく水をたぎも、松のいろ
夕月の中 ありのほそくしる 松の梢
八間の ありのまじき 木をこの平
あふ中 岩中 ちかみくもの ちか 水紋
霧野中 赤い雲 松の ちかよの 色
苔もろそ ちか 赤い丹の ありの ちか
ちか ちか ちか ちか 松の ちか 馬

加味

送道多し人の 勝りし あり子 松
野中 ちか ちか ちか 野の ちか
あまの ちか ちか ちか 松の 風
松の ちか ちか ちか 松の 石
蓮花中 ちか ちか ちか 蓮の 月
ちか ちか ちか ちか 松の 山
眼病の ちか ちか ちか ちか 松

松仙

麻布十...

長...

白...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

高のほろろ人々を愛する心

鹿や鳥を飼ふ心

草花や木を愛する心

蓮の花を愛する心

山を愛する心

水に遊ぶ心

月を愛する心

夕のあつた心

朝のあつた心

花のあつた心

鳥のあつた心

木々のあつた心

水辺のあつた心

空のあつた心

蓮花

春

新のけや 隆に雲が 枯の葉
 多新所 初年 長し 秋の重
 名月中 川の 隈に 石の 面
 名月の 木乃 ようい 中 根の 志は
 秋の 雲 借る 風よ 志は 見
 雲の 志は 借る 秋の 花
 雲の 志は 借る 秋の 道

花林

十六年中 雲の 志は 借る 秋の 花
 雲の 志は 借る 秋の 道
 雲の 志は 借る 秋の 花
 雲の 志は 借る 秋の 道
 雲の 志は 借る 秋の 花
 雲の 志は 借る 秋の 道
 雲の 志は 借る 秋の 花
 雲の 志は 借る 秋の 道

春

江子梅の指のさき中々之氣の如
谷月十海をさきし山ちのし

山間す夕のの梅のさきあひのさき

我く能り風吹中々之氣のさき

言中中梅をさきし魂まかり

秋まき之日とさきし多のさき

ノ松の月梅の引しし流をさき

後まかりの梅のさき中々之氣の如

市外、四つ中々之氣の如西の海

さきし梅のさきし梅のさきし

燈の梅のさきし梅のさきし

梅のさきし梅のさきし梅のさきし

梅のさきし梅のさきし梅のさきし

梅のさきし梅のさきし梅のさきし

梅子女

梅子女

あしあやしきあふかきあふのり
大文あやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり

止る

あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり
あしあやしきあふのり

文

法あるはまゝに道なきは月をみる

月をみるは安のついでにまゝのまゝ

まゝのまゝに松の淋しさをみまゝのまゝ

新緑のまゝにあまゝのまゝ柳を踊り

新くまゝのまゝのまゝのまゝ松のまゝ

時をまゝに新のまゝのまゝのまゝ松のまゝ

三つは松のまゝのまゝのまゝのまゝ松のまゝ

新のまゝに月を新のまゝのまゝのまゝ

新のまゝに松のまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝに松のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

松のまゝに松のまゝのまゝのまゝのまゝ

松のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

松のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ

文止

九一

好... 物... 托

大... 托... 托

如... 托... 托

必... 托... 托

未... 托... 托

自... 托... 托

自... 托... 托

嘉 雄

修... 托... 托

托... 托... 托

托... 托... 托

托... 托... 托

托... 托... 托

托... 托... 托

托... 托... 托

南 七

落し梅をまうりあうるは月日の馬
多一鹿のさもも踏く中一花の風
のさすの物よ一花をち捨つる中
ほろりあをまをさすりし山あか
馬のう角子花のかさまる川原に
つる子あしあをまをさすりし山あか
も今村のこころをりまをさすりし山あか

さすのさあしし一花をち捨つる中
踏くさあするあは花をち捨つる中
一花をち捨つる中一花をち捨つる中
一花をち捨つる中一花をち捨つる中

梅女

あけさきの物よまをさすりし山あか
梅のうらら梅のうらら梅のうらら
梅のうらら梅のうらら梅のうらら
梅のうらら梅のうらら梅のうらら

あふせし 玉山屋中、深のむ

あふせし 中々あふせし

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

角九

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

あふせし 秋のむ

一 雲霧をよみしふり出する 州角力

一 昨馬の速くおもゆる 秋の如

一 新馬の中 州又さすら玉馬の如

一 志らぬ身や身を清浄の 神詣

九洋

一 刈るは 念う福あり 木下絨

一 谷の底中 事も七五三を 言はれ

一 抱腹する 芒のふりや 新日 乾

角力

一 護うすの 石子 秋の籠

一 誓

一 破す ちのりよ 山守の 幸

一 名月中 たまぬ 州の 首の 足

一 若くは 残る ちのり 赤の 耳

一 雲霧をよみ 偏ゆり 中 秋の 月

一 押す 年の 新あそび ちのり 小の 月

一 轉の 屋敷を ちのり 中 焼く 出す

懐いゝあゝさうさう 懐いゝあゝさうさう

名月子からあゝさうさう 名月子からあゝさうさう

名月子からあゝさうさう 名月子からあゝさうさう

名月子からあゝさうさう 名月子からあゝさうさう

名月子からあゝさうさう 名月子からあゝさうさう

名月子からあゝさうさう 名月子からあゝさうさう

名月子からあゝさうさう 名月子からあゝさうさう

花見

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

あゝさうさうさうさう 名月子からあゝさうさう

山崎の山崎

小倉の山崎

とて山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

元年

山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

山崎の山崎

元年

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

天

天

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

あはれなる心もあはれなる心

天

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

七花文

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

あはれありあはれよとせりけり

一板

新... 山崎の... 谷... 橋... 越年力

左月

新... 山崎の... 谷... 橋... 越年力

素直なる心にて

心を清くしむる

今も昔も同じく

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

本意

試用

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

心の中を清くし

一撰

後中ふとるる 抄より 紙あり
門 後中 抄より 紙あり 抄より
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり

抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり

三高

抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり
抄より 紙あり 抄より 紙あり

歩鶴のついでに
秋の風

松重のついでに
鶴

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

秋のついでに
秋の風

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年

五十年

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年來之...

五十年

五十年

一 山崎のふもや 美濃の 藤と山
一 ちりちりと 牛の 鳴るよちり 一と云
一 冷や中 一社の 臨みよの 穂つのか
一 二七とよ 尾崎 野田と 三つと云
一 丁部中 山崎 一と云 一と云
一 方木の新 ちりちり 穂の 子ね
一 山崎の ちりちり 穂の 子ね

一 流るる ちりちり 一と云 一と云
一 刈取の 穂と云 一と云 一と云
一 穂と云 穂と云 一と云 一と云
一 穂と云 穂と云 一と云 一と云

蕉南

一 山崎の ちりちり 一と云 一と云
一 山崎の ちりちり 一と云 一と云
一 山崎の ちりちり 一と云 一と云
一 山崎の ちりちり 一と云 一と云

竹多を多敷るるまふし一筆の筆

永美の筆うつしとていふとていふ

さあはるるるるるるるるるるるる

物あまふとていふとていふとていふ

かたがたていふとていふとていふ

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

一光

あまの筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆の筆

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

本館

Handwritten text in vertical columns, likely a list or index, with several red square seals interspersed.

Handwritten characters at the bottom of the page, possibly a signature or title.

Handwritten text in vertical columns, continuing the list or index, with several red square seals interspersed.

中子見子... 一

世事... 一

出... 一

世... 一

世... 一

世... 一

而神... 一

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

言ひあはせし一秋のまゝのまゝに 秋をきき
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし

引きあはせし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし

秋をききしあはれし

秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし
秋をききしあはれし中 秋をききしあはれし

おはれは侍の夕のまゝさ〜〜新の條

藤原のつゝ〜〜りりりりりりりり

新の條を言ひか〜〜野分を

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

一五

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

新の條は新の條は新の條は

卷之五

此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五...



此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五... 此乃... 卷之五...



之五

山崎中 志ん又うらもきり

る月中海よりさきおきしの細

る鳥中 月よりさきおきしの細

はきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

あきりしはきりしはきりしはきりし

一 昔もしりんとまはるる 子まはるるまはるる

一 日なほそらそら 心なほそらそらのこゝろ

一 ちまのこゝろ 袖まのこゝろ ちまのこゝろ

一 昔もあやうとあやう 中 後 二 松 多

一 是もあやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 松多あやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 昔もあやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ 松多

一 御もあやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 松多あやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ 松山

一 昔もあやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 ちまのこゝろ ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 昔もあやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 ちまのこゝろ ちまのこゝろ ちまのこゝろ

一 昔もあやう ちまのこゝろ ちまのこゝろ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, with several red square seals or stamps placed along the left margin.

1 2
3 4

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page, with several red square seals or stamps placed along the left margin.

5 6

7

一 花のうらみ 打ち ぬき けり 花

はるかに 神を ねむ 新海 三

へる ちか けり ぬき けり 花

うき けり けり けり けり 花

けり けり けり けり けり 花

けり けり けり けり けり 花

けり けり けり けり けり 花

花のうらみ

花のうらみ けり けり けり けり 花

花のうらみ けり けり けり けり 花

花のうらみ けり けり けり けり 花

花のうらみ けり けり けり けり 花

花のうらみ けり けり けり けり 花

花のうらみ けり けり けり けり 花

花のうらみ けり けり けり けり 花

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

梅井

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

...

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也
此乃... 之... 也
此乃... 之... 也
此乃... 之... 也
此乃... 之... 也
此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

此乃... 之... 也

お原中地...の...の月

橋...の...は...

り...を...と...

非...の...の...

...の...と...

神...の...の...

...の...の...

お...
泉

...

...の...の...

...の...の...

...の...の...

...の...の...

...の...の...

...の...の...

...の...の...

小川

四重のうきうきと船のちり

坊主のうきうきと山取中 鶴の足

情けなく茶わるとるうきうき

うぬ 老のうきうきと人づらうあつら 秋の善

善きうきうきと 節の事 秋の風

節の事 節の事 節の事

節の事 節の事 節の事

行はれど 節の事 節の事 節の事 玉兔

名月や 梅の若きうきうき

馬のうきうきと 節の事 節の事

稲妻や 節の事 節の事 木づね

うきうきと 老の事 節の事

樹のうきうきと 節の事 節の事

情けなく 節の事 節の事 際

九洋

山取

吹鈴よちのりの年をやくま

足指ちのりて源入りや香方の徳

州刈と湖よりききしりあの日

霞より秋にちりしや后の月

世よちのり風よきるや西風の香

十上名前の新の源をよ初りりり

草子よ草子のも竹をきりつるよこよ

波 音

波の吹のりたのりの日やし州の香

浪の吹のりちのりて鶴の香

十上名前の新の源をよ初りりり

箱船中 葉の吹のりて世の香

橋の吹のりて世の香

波の吹のりて世の香

つらゆけとるまのちやねる香

心なきも多かりし 可なり 可なり 可なり

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

砂原の 秋を 誰か 能く 能く

此泉

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

づゝ 秋の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

信

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

白

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

秋の夕 夕暮の 夕暮の 夕暮の 夕暮の

物ツの袖スに羽ハ付ツ玉タマ種タネのシ徳トク

月ツキのシくクみミあアせセしシ新ニのシ徳トク

日ヒのシ赤アカあアせセしシ礎イソのシ平ヘ

虫ムシのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

かカのシ舟フネのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

花ハナのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

新ニのシ徳トクのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

又マタ物モノのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

新ニのシ徳トクのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

戸ドのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

戸ドのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

戸ドのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

戸ドのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

戸ドのシあアらラふフるルとト廿ニのシ上ウヘ

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

幸女

二山

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

山崎の山崎の山崎の山崎の山崎

庄幸

所記

山に雲を巻くは秋の霞や、

水に波を打つは秋の波や、

空に鳥を翔ぶは秋の鳥や、

木に葉を落すは秋の葉や、

石に露を結ぶは秋の露や、

月を眺めるは秋の月や、

星を数えるは秋の星や、

尚一

五十一

草花の匂は春の香や、

鳥の鳴きは春の音や、

川の流るは春の水や、

雪の融けるは春の光や、

花の咲くは春の情や、

鳥の飛ぶは春の夢や、

空の青さは春の心や、

新山

春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる

春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる

仙民

春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる
春の風をよめる

永くはしるしるのうきしき 甚くは

水楯の中はりのなるみまふ

柱をきくくくくくくくくくく

美とくくくくくくくくくく

ちみくくくくくくくくくく

かぬる年のく角子なるくくく

洞中なるくくくくくくくく

栢 (樹)

日なほそ 後にもくくくく

積竹中くくくくくくくく

山にもくくくくくくくく

あまにくくくくくくくく

月のあまにくくくくくく

柱のくくくくくくくく

柱の中くくくくくくくく

唯風の志ありしを知るを思ふ
名も中まを信の守ぬらり
しるしをさうぬらりしを
しるしの語はあれかしは
わたりしりしを
剣鉤編るるありし
橋まや九十九

一 雲あはれし信のあて
まけしるる南力の橋中
水を向けてさし
橋まやしるる
しるしの語はあれかしは
わたりしりしを
剣鉤編るるありし
橋まや九十九

月夜をくらりしやあはれな思ふも
元まの祝ひあるも思ふも
さびしき流を流して水はさ
折るるの思ふも思ふも
名月中の思ふも思ふも馬
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも

と
思ふ
所

思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも
思ふも思ふも思ふも思ふも

難いことあり引河の心も
る時々の抽揚と云ふや杉の
かきよと云ふもさきの
杉の道一命のさき
名前のさきと云ふもさきの
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき

杉

杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき
杉の道一命のさき

杉

岸の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは
野の草少水多ありて涼なるは

菅の雨

秋の雨

美草のつらみ 秋の草のつらみ
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水
川の中を流るる水 秋の川の中を流るる水

喜声

居る水邊の 秋の 風
おぼろげに 秋の 風
平涼に 秋の 風
多し 仲角の 秋の 風
中 秋の 風
後 秋の 風
海 秋の 風

秋の 風

海 秋の 風

橋 秋の 風

橋 秋の 風

秋の 風

秋の 風

秋の 風

道

とてしるす道に風をいさよふ漁かた

村風やさるるのりてはゆの境の折

とてしるす中一き新きく子つ月

とてしるす中つとてしるするるるる

村邊ふたりをさるるるる湖の道

とてしるす中折りてはゆの境の折

眼のしるすをさるるるるるるるる

道に雨

柳のりてはゆの境の折

とてしるす中一き新きく子つ月

とてしるす中つとてしるするるるる

とてしるす中折りてはゆの境の折

村に

とてしるす中つとてしるするるるる

とてしるす中折りてはゆの境の折

とてしるす中つとてしるするるるる

州
神
神

神

神

神

神

神

神

神

神

紅印
か
か
か
か
か
か
か
か

一哲

か
か
か
か
か
か
か
か
か

紅印
か
か
か
か
か
か
か
か

仙民

か
か
か
か
か
か
か
か
か

紅印
か
か
か
か
か
か
か
か

杉^子美

か
か
か
か
か
か
か
か
か

紅印
か
か
か
か
か
か
か
か

一柏

か
か
か
か
か
か
か
か
か

紅印
か
か
か
か
か
か
か
か

江二

か
か
か
か
か
か
か
か
か

紅印
か
か
か
か
か
か
か
か

春女

か
か
か
か
か
か
か
か
か

泉 湖村の今

くわのほろ

ハ 年 味 仙

ほのこ

少 年 如 年

るまのこ

如 泉 如 泉

ほのこ

ろ 泉

一 年 如 泉

正 天 載

か 秋 の 如 泉

南山

角丸

九洋

山

教山

雨松

如泉

松

ちりしとさるる

青芽

秋の日は

紅葉

秋の日に

孝女

かたがは

ふたつ

あはれ

梅

下

一

一
花林

花林

江二

江二

梅女

梅女

柳仙

柳仙



Handwritten Japanese characters in cursive style, including the characters 村 (village) and 湖 (lake).

Handwritten Japanese characters in cursive style, including the characters 山 (mountain) and 石 (stone).

Handwritten Japanese characters in cursive style, including the characters 水 (water) and 流 (flow).

Handwritten Japanese characters in cursive style, including the characters 草 (grass) and 木 (tree).



Handwritten Japanese characters in cursive style, including the characters 花 (flower) and 鳥 (bird).

Handwritten Japanese characters in cursive style, including the characters 月 (moon) and 夜 (night).





二ノ人

可
ノ
ノ
ノ
ノ
ノ

新
ノ
ノ
ノ

南
丸




河
ノ
ノ
ノ

ノ
ノ
ノ
ノ

ノ
ノ
ノ
ノ

丸
一

知 

子 

蕉南

江
子
の
一

子
の
一

子
の
一



懐
子
余

蕉南



蕉南舍

新月主人